

中学1年生が県立大学訪問研修を行いました

令和6年3月7日（木）に、1年生が県立大学訪問研修を行いました。午前中は講義室で生物資源学部に関する講義を行い、午後から3グループに分かれて実習を体験しました。

【午前中 講義】

最初に元高志中学校長でもある窪田裕之理事長から、「うさぎとかめ」の寓話を題材に対象が同じでも視点をどこにおくかによって得られる結果が異なることを学びました。

次に、生物資源学部について日弁隆雄先生、深尾武司先生、風間裕介先生からお話いただきました。「何のために学ぶのか」という根本的なことから「不思議＝課題発見のチャンス」といった、現在、生徒が高志学で行っている探究活動の拠り所となる考え方を教えていただきました。

その上で、専門的な細胞、ゲノムについての最新研究を分かりやすく説明していただき、講義の後にはたくさんの生徒が次々と質問していました。



【午後 体験実習】

グループ①では、持参したペットボトルを使って顕微鏡をつくりました。身のまわりにあるものでプレパラートもペットボトルの切れ端で作成し、植物の繊維が見えた瞬間には歓声上がるほどでした。

グループ②では、クロマトグラフィの技術を使ってパセリのカロテンやクロロフィルの成分を分離しました。親水性や疎水性を利用して分離する方法が分かった生徒は、ニンジンやムラサキツユクサなどの他の野菜も自分たちで分離していました。

グループ③では、お米の食味試験を行いました。実際に6種類のお米を炊いている間にヨウ素デンプン反応実験を行いました。アミロースの量によって濃さが違い、お米の甘みも同じように異なることに生徒は驚いていました。

